

## ★ 掲示板:『放知技』(ほうちぎ) ★ 三

★ 掲示板:『放知技(ほうちぎ)』★ 35233435



2018年元旦,金正恩,五輪外交を開始!平昌五輪を大成功に導く。習近平が金正恩を超国賓待遇!金正恩が米朝首脳会談を提案,これをトランプが即断で受諾!金正恩,板門店から韓国に入り,南北首脳会談。大成功!トランプが5月中の米朝首脳会談を示唆。マティス国防長官が「駐韓米軍の撤退」を示唆!…まさしく激動の2018年だ。この激動の切っ掛けをつくり,激動をリードしてきたのは,金正恩(34)だ!今後も金正恩は世界をリードする!目が離せない。深い考察と議論が必要だ。(M部長・飯山一郎)

### 金正恩の真実 → 金王朝の“深い謎”・ピピンバ!北朝鮮!

てげてげ(1) てげてげ(2) なんちゃらかんちゃら 文殊菩薩 里子のブログ 亀さん **NEW** きこの組 **NEW** へっぴりごし

**【!!必読!!】**『日本』という国名の秘密 **NEW** かんだい・ネットショップ 『放知技』データベース

検索: 応神天皇

OR  AND

|  |  |  |

## ■ キーワード

応神天皇  
八幡宮  
武内宿禰  
神功皇后  
北燕  
古墳  
豪族

## ■ 掲示板「放知技」

名前: 飯山一郎 2017/12/08 (Fri) 21:41:17

日本国建国の秘密は...

応神天皇(ホンダワケ)の「父」、仲哀天皇の「戦死」にあり!

『天皇親伐熊襲中賊矢而崩也』

仲哀天皇は南九州で崩御

「仲哀天皇九年,時年五十二,匿天皇之喪,不令知天下」

<http://grnba.jp/index.html#aa12081>

名前：飯山一郎 2017/12/15 (Fri) 22:15:38

「全国の人幡神社の主神＝応神天皇は、南九州熊襲族の酋長だった！」

こんな↑歴史物語を書きまくったワシを、いま、全国の極右が目の仇にしている。

でも、下の文章を読めば↓天皇至上主義の極右の諸君も分かるはずなんだが...www

- ・ 【連載：ホンダワケ】 応神天皇は仲哀天皇の子？ <http://grnba.jp#aa12081>
- ・ 【連載：ホンダワケ】 巨大な前方後円墳の原型は？ <http://grnba.jp#aa12101>
- ・ 【連載：ホンダワケ】 やはり応神天皇は... <http://grnba.jp#aa12151>

---

名前：飯山一郎 2017/12/20 (Wed) 00:44:19

>>845

堺のおっさん

「鯨」の（解体）産地といえば、じつは、古代から「下甑島」なんです...

河内ワケ・応神王朝と、大隅熊襲族の関係のウラを取るだけでも難行苦行なのに...

「下甑島」に焦点を当てざるをえなくなり...、これに今のワシは難行苦行！

しかも！ 最近、江戸時代中期の「下甑島」での鯨の解体作業のトンでもない資料が手に入った！

さらに！ 織田信長が天皇家に献上した鯨肉も「下甑島産」らしい...という資料も（来春早々に）入ってくる。

「下甑島」は、南朝側が後醍醐天皇と楠家の「おタネ」を3百年以上も「温存」してきた島なので...

天皇家と下甑島産の鯨肉の関係は濃厚どころか、「捕鯨」は天皇家の支配下にあった！とまで考えざるを得ない。

その天皇家が、応神天皇の御代に河内・ワケ王朝（大隅之宮）を建立した！と。

古代から現代に至る「鯨肉文化！！」

調べものに追われて、飯山一郎は朝から晩まで、おベンキョ〜の日々...

ホトホト楽しく参ってます。いや、まいりました！（爆）

---

名前：飯山一郎 2018/01/04 (Thu) 19:21:09

>>45

堺のおっさん

> 応神天皇（ホンダワケ）が、実質的な日本の国家構造を作られた

このことは↑『日本書紀』と『古事記』を、眼光紙背、注意深く読めば見えてくるはずだ....

大隅半島まで熊襲征伐に遠征して来た仲哀天皇を「賊矢」で射殺したのは...

譽田別尊（ホンダワケのミコト）を酋長とする熊襲族であったことは間違いない。

ホンダワケは、政治と軍事は武内宿禰（タケノウチの宿禰、弥五郎どん）に任せ...

高麗人、百濟人、任那人、新羅人らの来朝時は、権威的な外交を行っていた。

河内王朝の統治構造は、仁徳天皇陵の如き「権威」を高揚させる政治であった。

しかし、その河内王朝を打ち立てた「軍団」が、熊襲族であったこと！

このことを↑『日本書紀』は巧妙に隠しているが...

応神天皇紀からは、「熊襲」が一切出てこず、代わりに「隼人」がデビューしたことは...

ウラ側の事情（「熊襲隠し」）が、逆に、ミエミエになっている www

いっぽう、河内に「東征」した熊襲族の一部が、「被差別賤民」に貶められたことは...

歴史の暗部と断じるしかない。

---

名前：飯山一郎 2018/01/06 (Sat) 01:50:37

>>56

「國体と政体」は、「権威と権力」の関係（国家二重構造）でもある。

その原型 (prototype) は、『三韓時代』(BC 300年頃)にある。

古代朝鮮(旧満州)には、馬韓、辰韓、弁韓という国があった。

いわゆる『三韓時代』である。

この『三韓(馬韓、辰韓、弁韓)』は、いわば競合関係にあった。対立もしていた。

もし、対立が深まり、戦争前夜のような深刻な事態になると...

最高権威者=『辰王』が仲介に入った。

三韓時代の『辰王』は、必ず「馬韓国」の王が即位した。

『辰王』は世襲制であり、首都は「月支国」にあった。

『辰王』は“鬼道”に優れ、“鬼道”によって三韓を支配下においていた。

この“鬼道”は、自然崇拝・精霊崇拝(アニミズム)に近かった。

『辰王』の“鬼道”は、日本の古神道や“卑彌呼の鬼道”に近いと見ていい。

『辰王』とは、タイ国の『故・プーミポン国王陛下』のような存在だと見ていい。

タイ国では、正式には『プーミポンアドゥンラヤデート』とお呼びしなければならなかった。

『プーミポンアドゥンラヤデート』とは「大地の力・並ぶ事なき至高の権威」という意味である。

つまり、「最高権力」ではなく、「最高権威」である。この点、注意されたい。

なお、『馬韓』と『応神天皇』の間には...

(驚くべき)深い関係(ツナガリ、レンシ)があるのだが、折をみて書きたい。

「応神天皇」と「馬韓」の深い関係！に触れる前に、女王・卑弥呼について書いておきたい。

卑弥呼（の使者）が帯方郡を訪れる際，“馬韓国”は通過地だった。

『辰王』の統べる“馬韓国”に“侵入”してきたのは“扶余国”の残党であった。

“扶余国”は、ツングース族の末裔である。

ツングース族の王も，“鬼道”に優れた“草原のシャーマン”（巫師）であった。

“シャーマン”とは、ツングース語の「?aman, シャマン」から派生してきた言葉だ。

“扶余国のシャーマン”は，“馬韓国の辰王”の地位を奪い、やがて、帯方郡の故地に

新しい国家を立ち上げる。これが『日本国』の先祖『百済国』である。

したがって…,

『百済国』とは，“馬韓国”のアミニズムを吸収したシャーマニズムの国家なのである。

ここで…, これまでの物語を大雑把にまとめてみよう。

卑弥呼の邪馬壹国が参内した帯方郡で、馬韓と扶余が合流し、百済国となり…,

韓半島まで東遷（東征）し、百済国が減びると、日本に渡来してきた百済人。

百済人の血は、馬韓人と扶余人と卑弥呼のDNAが渾然一体となった血脈で…,

この血流の一貫性こそが、万世一系の神話なのである。

ちなみに“馬韓国”は、帯方郡の南にあった。

現在の平壤（ピョンヤン）は、当時の“馬韓国”の南端部に位置している。

まさしく，“不思議に満ちた地政学”である。

【参考文献】 『三国志魏書』扶余国伝、『三国志魏書』馬韓伝、『後漢書』馬韓伝、『晋書』馬韓伝、『北史』百済伝、『唐会要』百済伝、『通典』百済、『隋書』百済伝、『周書』百済伝、『梁書』百済伝、『宋書』百済伝。

---

名前：飯山一郎 2017/09/16 (Sat) 21:30:43

>>410

『日本書紀』というテキスト＝文章に書いてあることは、明らかな神話部分を除いて、みな実在した史実だと思ってしまう。

イザサワケ＝ホンダワケ（応神天皇）も、大化の改新も、ウマヤド（聖徳太子）も、壬申の乱も...

み～んな日本列島での史実だと、新井信介氏などは頭から信じこんでいて...

『日本書紀』の元ネタが、百済国や伽耶国の歴史だとは露ほども疑わない。

ところが、『日本書紀』が、じつは、『百済書記』（百済の歴史）であることを...

『天皇系図の分析について』（<http://amzn.to/2w0dsJ2>）という大著が、証明してしてしまった。

ワシの師匠・山形明郷は、『卑弥呼の正体』（<http://amzn.to/2w0lHol>）は...

百済国が朝鮮半島南部にあったという通説（テキスト）を...

中国の正史の記述を援用して、遼東・陵西に所在した巨大な国家であることを証明してきた。

世の中、ほとんどの人々は、文章（テキスト）の表面の意味にとらわれて、文章の背景（コンテキスト）を読まない。

だから、テキストだけでなくコンテキストをキチンと読める人だけがE～おもいをするワケで。www

---

名前：飯山一郎 2015/10/07 (Wed) 20:08:12

>>914 かんたさん

『天武天皇以前の日本列島』

7世紀後半から、日本列島には途轍もなく巨大な歴史的な大変動がありました。それは、先ず「日本国」という「高度な国家機関」が「突然」あらわれたことです。この「日本国」が編纂した『日本書紀』も、あまりに「ハイコンテキスト」でした。畿内につくられた平城京などの巨大な都城都市も、「突然」あらわれました。これらが、突然、日本の「内部」から現れるワケはありません。この日本列島の大変化は、百済国が「国ごと」大移動してきた結果です。

それでは、「百済国による日本国建国」以前の日本列島の様子はどうだったか？

古田武彦によれば...

七世紀までの日本列島には「近畿天皇家」よりも先に「九州王朝」が存在していて、遣隋使を送るなど中国と通好していた...、と。

私は、古田の言うとおりに、「九州王朝」は実在したと思います。

そのひとつが、「阿蘇山」の近辺に存在し、『隋書』に書かれた『?国』。

いっぽう、「近畿天皇家」とは、「仁徳天皇陵」や「応神天皇陵」を築造した近畿の大豪族たちで、彼らは、古墳時代の大スターでした。

天武天皇は、九州王朝（?国）を併合したあと、近畿に東征し...、「近畿天皇家」を篡奪し、大豪族の「系譜」を参考にしたり、また、大豪族の族長たちをモデルにして「万世一系の天皇家」の歴史物語を編纂した。これが『日本書紀』でした。

以上、天武天皇以前の日本列島は、大豪族たちが支配する「古墳時代」であって、「国家」といえるほどの国家機関や領土はありませんでした。

---

名前：堺のおっさん 2017/12/30 (Sat) 22:10:16

日本固有の国家構造が国体と政体の2重構造。

これを始めたのがどうやら応神天皇らしい。

南九州のワケ（地方豪族の長）であった応神天皇が

熊襲族を従え河内に進出。

応神天皇陵をはじめ巨大な古墳群を造営。

これが国体の管轄となり、国家の権威を高める存在へ。

一方、軍事や内政などの権力は武内宿禰に一任。政体として分離。

これが延々と南北朝時代の一時を例外に続く。

これがなければいくら島国とはいえ、日本という国は統一国家として

これほどの長い歴史を作れただろうか。

権威と権力の一体化した王朝はすべて滅んでいるし、

国家の混乱下で民族もまた消滅や分断を余儀なくされている。

応神天皇がこの発明をした理由は分らないが、

新天地の河内で王朝を経営する中で自然と生まれたのかもしれないし、

武内宿禰がそうさせたのかもしれない。

国体と政体の分離が実施された結果、

日本は今日の礎を作ることができたともいえるのである。

また、政体は連続性を条件としないが、国体は絶対的に

連続性が最優先される。

女性宮家創設に反対する理由でもある。

連続性は男系でなければ継承できない。

国体を似て非なるものに置き換えてしまう危険性が隠されている。

---

名前：堺のおっさん 2018/03/16 (Fri) 16:24:12

>>971 奥田 正行様

関西生コンガサ入れ情報に続き、興味深い部落史を提示いただきました。

応神天皇が大隅半島から河内東征されたとき、熊襲族が大勢移住しました。

さらに、天武天皇が河内東征を行い、食肉禁止令を出す。

飯山古代史では、ここから部落の歴史が始まったと分析されています。

何故、食肉禁止令が出されたのかですが、河内に定住した旧熊襲族を

技術集団として作り変える意図もあったと。

同じように、穢多非人役は従来描かれていた説（白戸三平氏のカムイ伝が代表）

とは社会での意味合いが違うのではないかという指摘は興味深いです。

---

名前：堺のおっさん 2018/07/25 (Wed) 23:20:22

もう一つ、遺言めいたことをお伝えしたい。

飯山一郎氏の最後の講義は、志布志の横瀬古墳の脇であった。

氏はこう言い放った。

「文明は忽然と現れる！」

歴史によれば文明の滅亡の原因は割と解き明かされている。

それはエネルギーの枯渇であったり、自然環境の大変化であったり。

一方、文明の発生はあまり解き明かされたとは言えないだろう。

従来考えられてきた古墳文明（文化）は近畿圏で発生し、

やがて全国に伝播していったと考えられてきた。

その定説は今、覆されつつある。

河内王朝の古墳群よりも古い時代に志布志において

すでに、前方後円墳が造営されていたのだ。

それも、なぜか当時の海岸線に近い立地に造営されている。

砂地に1000年以上も崩れない盛り土を施し、巨大な造営物を土木する。

河内王朝の応神・仁徳陵も当時は海岸線に近い所に作られている。

明らかにこの共通項から推測するに志布志と河内王朝は同じ文明圏に属する。

それが、まさに忽然と現れたのだ。

文明は忽然と現れる。これは歴史学のテーゼになる。

人類は一つの文明を何かの技術的革新によってまさに忽然と生み出す。

今文明の転換が言われるが、それには革新的技術と

それを受け入れる人々の生き方、そしてそれを基本とした国家が必要となる。

乳酸菌をベースとした発酵文明はこれまでの消費文明を転換した文明となる。

いずれ、新しい文明を基本とした国家群が忽然と現れるのだ。

飯山氏は言葉を大切にされた。私は、氏の使う言葉に時々はっとさせられたが...

文明は忽然と現れるという表現には深い意味を感じざるを得なかった。

次代の乳酸菌文明もまた、忽然と現れるのである。

革新的技術を伴って。それは言う名でもなく...

グルンバという有機物の超微細化技術である。

---

名前：飯山一郎 2011/01/29 (Sat) 17:23:42

サムライさん。

やっと「ツラン」が視野に入ってきました。

金王朝の謎は、「ツラン」を視野に入れずには解けませんので。

貴殿の『ツランという絆』↓は、もちろん読んでおりました。

<http://pro.cocolog-tcom.com/edu/2010/03/post-f66f.html>

このなかで貴殿が紹介された「荒川静香とトゥーランドット」。  
あの華麗なイナバウアーのバックに流れていた曲のトゥーラン  
がツランだと知ったときは驚愕の至りでした。

だから、東洋的な雰囲気のスケーティングだったのですね！

「ツランの秘儀」は、あまり延ばさずにズバリ書いていきます。

きょうも、北魏の最盛期をつくった馮太后が天皇家の先祖筋であることをズバリ指摘しました。

馮太后は、遼寧省の柳城を首都とした北燕の王族の出身で、  
北燕の王族は北魏と高句麗に追われ百済に逃げ込みました。  
その百済が北燕の馬具などを日本に持ち込んできて、それが  
大阪羽曳野市の応神天皇陵の誉田八幡社に現存しています。

北燕の王族の埋葬品と、応神天皇陵の埋葬品が全く同じ形！  
以前、私は、このことを↓ココ↓で説明しました。  
<http://grnba.com/iiyama/html/16kodaisi.html#RyoNei>

ま、菅田八幡社に現存している馬具は、ツラン型騎馬民族のモノなんですが…。この件は、あとで書きます。

飯山一郎

---

名前：飯山一郎 2011/02/01 (Tue) 10:04:47

鹿之助さん

貴殿の上のMSGは、小生の拙論を熟読された証（あかし）。筆者としては感謝感激の至りです。同時に、貴殿の誠実几帳面な性格が瞭然のMSGです。早速返答させていただきます。

### 1. 百済国

百済国は、倭人・漢人・馬韓人・扶余人・鮮卑人・拓跋人・高句麗人等々雑多な民族・種族が同居した“坩堝（るつぼ）国家”でした。  
百済国建国の地は帯方郡の故地。帯方郡は公孫氏の領地で遼東の地。  
百済国の文書官僚は漢人が多数を占めていました。

### 2. 平城京

奈良の平城京は、その命名からして北魏の平城京の模写再現です。  
で、奈良の平城京を築造したのは、天武・持統・元明・元正等、百済国の王族。  
しかし、百済国と北魏は、人的・年代的・地理的に隔たりが大きく接点がない。とくに、奈良平城京築造の百済人と北魏は、ほとんど無関係。

### 3. 疑問

人的・年代的・地理的に、ほとんど接点がない奈良平城京と北魏平城京。  
この二都をつなぎ結ぶ仲人こそ、北燕だった。  
北燕は、河北・西部の平城京（今の大同市）に馮太后を送り、百済が都した柳城には馮氏一族が残り、高句麗の圧力から逃げ坩堝国家・百済に入り、百済王室にも貴族階級として入り込んだ。  
北燕の王族の馮氏一族こそ、北魏と百済をつなぎ結ぶ媒酌人だった…。

### 4. 応神天皇

菅田八幡に現存する「金銅透彫鞍金具」は、北魏が倭国に贈ったモノではありません。百済滅亡の際、百済の王族が難波・河内まで持参したモノです。それから…、  
応神天皇のモデルらしき人物（豪族の親分）が河内近辺に生存していたことは事実でしょうが、応神天皇という天皇は、『日本書紀』に書かれた「天皇」で、「応神天皇」なる天皇が日本列島に生存していたという事実

はありません！

↑このことが分らないと、日本の歴史は、『日本書紀』なる神話物語の幻想のなかで、史実と神話が混在する混乱史になります。

## 5. 結論

奈良平城京は、北魏平城京の後継城市。二都をつないだのは北燕。

日本国は、百済国の後継国家。二国をつないだのは北燕。

北燕という“流れ星”は、成層圏で二分割。

一は北魏国に、二は百済国に落下し…、

北燕の“血”は、今も、日中の貴族階級の体内を流れている…、と。

---

名前：飯山一郎 2011/02/02 (Wed) 13:24:25

鹿之助さん

どれも良い質問です！

(几帳面すぎるキライがありますが…)。

1. さて…、

応神天皇陵{陪塚}と書いてありますが、

丸山古墳は、

右の図面でも、現地に行ってみても

分かりますが、

あとから慌ただしく取って付けた墳墓で、

巨大な応神天皇陵の{陪塚}でもなく、

同時に築造されたものでもありません。

また「応神天皇陵」は命名者が憶測で命名しただけ。

応神天皇の陵墓ではありません。

また、応神天皇などという天皇も神話の中の天皇。

だいたい応神天皇の時代(3～4世紀)、日本列島

には、「天皇」は存在していません。

2. 遼寧省柳城郊外の北票県に現存する墳墓には、ありとあらゆる

種類の墳墓、ピラミッドみたいな墳墓もあります。

前方後円墳はなかったようです。

3. 「北燕が、北魏に馮太后を送った…」というのは、文学的な表現です。

実態は、馮太后の娘時代に父親に連れられ北魏に亡命しています。

北燕の残党が、北魏に入り込み、百済にも入りこんだ…。これを文学的に表現すると…、

「北燕が送り込んだ馮太后が、北魏の絶頂期をつくり、後の中華帝国の繁栄の基礎をつくった…」

となるワケです。これは『北燕』という国家を強調する書き方です。

実際、馮太后は(そして百済に入った北燕の王族も)、北燕の人間だ！

という意識(アイデンティティ)を失うはずはないのですから。

4. 百済が南韓の地に遷都したという資料・文言が何処にあるのか？  
これは、逆に、私が知りたいです。

5. 「なんちゃらかんちゃら」は、これから行って見えます。  
やること為すこと、遅くてすみません>鹿之助殿

以上。飯山一郎。

---

名前：飯山一郎 2011/01/10 (Mon) 18:08:55

鹿之助さんの今回の投稿は、奇想天外の珍説が多いです。  
ですが、ま、自由奔放な人柄を存分に発揮され...、  
憶測、推測、伝聞、伝説、異説、自説、仮説、想像...、  
色々様々、彩色豊かな想念が闇鍋（やみなべ）ゴツタ煮に  
なっています！  
その歴史哲学の叙述はとどまる所を知らず、誠、稀有壮大です。

ただし鹿之助さん。

貴殿の論述は...、

「誉田別」の「ホムタ」はヘブライ語の（ホマタ）が語源とか...、  
「スメラミコト」は、シュメール文化圏の言葉とか...、  
「ホムタノスメラミコト・ヒロハタ・ヤハタマロ」はユダヤ語とか...、  
と、語呂合わせの独善的な解釈が多いです。

また...、

イエスが礎になった十字架が伊勢神宮の内宮地下殿にある...、  
といった解説は、トンデモ伝聞伝説の類です。

「応神天皇とイエス・キリストの関係」も、私には珍説にすぎない。

歴史学者でなくても...、

千人千色の歴史解釈のなかで、万人納得の史実は提示可能です。

たとえば、貴殿の論述中に出てくるの応神天皇稜と誉田八幡宮。

この神社に、私は近鉄線を乗り継ぎ、何度も通った。

そして、私は、誉田八幡宮の境内で、大発見をした。

★日本という国家が、百済国の継承国家だということ。

★その百済は、朝鮮半島の南部（定説）ではなくて、はるか満州の  
遼寧省朝陽市（昔の柳城）にあった！

ということ。

このことは、ここ↓に書きました。

<http://grnba.com/iiyama/html/16kodaisi.html#RyoNei>

↑これは、万人納得の史実につながっていきます。

歴史を語る時注意すべきは...、  
憶測や推測で語るのではなく...、  
確かな文献と証拠をキチンと押さえた上で語る！  
ということだと思っんです。

いかがでしょうか？>鹿之助さん<飯山一郎

Re: 遅蒔き・亀レス御容赦の程

---

名前：飯山一郎 2011/02/01 (Tue) 21:42:40

不動明王さん

貴殿のスレ（ココ）、全く気づきませんでした。

このBBSは、使い勝手が悪いというか、不良エレベーターです。

遅蒔きながら亀レスします。

さて...、

1. 先ず記紀の話。

記と紀は、全く別件で、完全に切り離して考えねばなりません。

とくに記には、真言（しんごん）とも、神言（しんげん）とも言うべき  
言霊（ことだま）がやどっています。

紀は、型は中国の正史を模しましたが...、

紀の内容（コンテンツ）は、底本＝種本があって、

『百濟記』『百濟新撰』『百濟本記』（『三国史記』の「百濟本記」とは同名異書）  
です。

2. 『日本国』建国と記紀の関係。

『日本国』は、天武が、百濟→濟州島→宮崎→志布志→難波→奈良  
という経路を辿った末に建国しました。

建国後、記紀の編纂を命じました。

このとき、紀の底本は先述の三種の史書。

天武の日本建国まで、日本列島は幾多の豪族が群雄割拠する「古墳時代」。

古墳時代の日本は、弥生式農業大集落が散在する集落国家群列島でした。

城市、都市といえる街並みは何処にもなく、非常に遅れた、未開発の  
うす汚い土民が住む後進国でした。

そこへ...、

白村江の後、大量の百濟王族が日本列島に大挙来訪し、藤原京、平城京と...、  
超巨大な城市国家を、アツという間につくってしまう。

ここに、日本は、古墳時代から最先端の都市国家に一気に変身したのでした。

こうして日本国は天武の御代となり、日本国の歴史が開始されました。

...ということは、天武以前の歴史は、すべて全部、満州にあった

百済や北燕や北魏といった扶余・鮮卑王朝の残像。  
あたかも...、  
米国史とは、メイフラワーが到着してからの歴史で、これ以前は...、  
歴史がなかった！  
同じように...、  
日本史とは、天武が奈良に到着してからの歴史で、これ以前は...、  
歴史がなかった！  
と。  
こんな簡単なことが分からず...、  
天武以前にも歴史があった、とカン違いしてきたのが、  
いままでの歴史学です。  
...といった話を、これから『てげてげ』でやります。  
4649！  
飯山一郎。

---

名前：飯山一郎 2011/03/04 (Fri) 22:09:14

先ず...、  
日本語とは何か？ という問題をたてましょう。  
答えは...、  
日本語は、ウラル・アルタイ語系で、ツングース・扶余族百済系の膠着言語です。  
つまり、  
日本語の根幹には、ウラル・アルタイ系の膠着言語である百済語があるのです。

韓国では...、  
韓国語は新羅語、日本語は百済語がもとになっているニダ！ これが常識です。  
ところが...、  
百済語には、大問題があって...、  
古代胡語系の殷や、鮮卑語系の北魏や、漢語系の北燕、倭語系の邪馬台国、  
ここにツングース語系の扶余が、『馬韓』でゴチャ混ぜになって新しい百済語が  
できて、このゴチャゴチャの百済語が日本列島に入ってくるワケです。

ただし...、  
この新百済語は柔軟性（包容力）があって、新規参入外国語を同化する能力が  
高いのです。

（この言語としての包容力は、『馬韓』の時代に身につきました。）  
ですから、百済語は、先ず九州に入り、筑紫→日向→大隅と南下するに従って  
南方系九州土着語を取り入れながら同化していきます。  
こうして九州の地で、新百済語は、新々百済語に変身するワケです。

そうして、百済人たちは、大隅の志布志から海路（高知沖）、難波に“東征”する  
のです。  
難波の地で、現地の母語を吸収・同化しながら、新・新々百済語になります。

これが、7世紀・新日本の日本語です。

それから、もうひとつ。

百済人が日本列島に渡来して来るまで、日本列島には、統一された日本標準語などはありませんでした。

当時の博多人と、薩摩にいた原住民は会話が通じませんでしたし、難波に行くともた別の言語が話されていました。

ようするに、7世紀までの日本列島には、歴史も言語もなかったのです！

日本の歴史＝『日本書紀』をつくったように、日本語をつくったのも百済なのです。

...ちうこってす>ひまこ様

---

名前：堺のおっさん 2016/11/01 (Tue) 17:20:42

百済は大唐帝国の迫害から逃れるために日本列島へ亡命してきた。

というのは飯山史観の根幹。

では、何故百済は迫害を受けたのか？

それは、東北地方から侵入を試みる騎馬民族として殲滅対象であったから。事実、白村江では海が真っ赤になるほどの殲滅を受けた。

というのが第一の理由であるが、どうもそれだけでは大唐帝国と百済の国力の差からして、「何もそこまでいじめなくてもいいんじゃないの？」という疑問がぬぐいきれない。

そこに、出てきたのが殷から連なる亀卜の系譜である。百済の前身は馬韓・弁韓・辰韓の馬韓。もめごとが起こると、馬韓の王が平和的に収めたという。

現在の「国体」と「政体」の関係である。「政体」で話がつかなかったら、「国体」が解決するのである。

何やら、神話時代の「徳」で治める国家形態を連想させるが、大唐帝国は真逆の「政体」オンリーの律令国家。百済とは文化というか、文明の根本からして成り立ちの違いを感じる。

「覇権国家」としての大唐帝国から見れば、百済はある種理想的な国家であり、また、律令国家としての規範を超える国家だったのではないか？

大唐帝国の皇帝にしてみれば、「権威」で自分をしのぐかもしれない存在など許しておけない。平たく言えば「嫉妬心」なんだけど、古今東西人間の心理でこれほど残虐な行為を行う原因はない。

こうして東アジアからシャーマニズムは否定され根絶された。日本列島へ逃れた百済はおおっぴらに「亀卜」を行うわけにもいかず、天皇の宮中での秘め事として現在に至る。

一方、すでに周の時代から発達してきたのが「易学」。奇門遁甲なども有名だが、信奉する人には失礼であるが、結構胡散臭い。

というのは、何流も存在することはなぜなのかを考えると、所詮は御用学問に過ぎないのだろうと思うからだ。

亀卜は、儀式化しているとはいえ、右か左かを示す必要があった儀式。判断は徳のあるシャーマンが考え決めたのだと思う。

一方、易学は、はじめに結論ありきの答えを権威づけるための学問のように思える。当然にも、国民の安寧をつかさどるというよりも、権力の維持を目的とするため学問を装ったと考えれば、あの複雑なまがまがしさも納得がいく。

大唐帝国が百済を迫害した原因は、律令制という法治国家を脅かす存在を根絶するためであった。と

補足するなら、一見長安の都を真似たという（真相は北魏の都を真似た）平城京と、律令国家としての装いも、シャーマニズムを隠ぺいするためであったとも考えられる。

---

名前：飯山一郎 2017/06/20 (Tue) 11:09:41

>>812

猿都瑠さん。稲村公望先生の文章は、日本の古代史を考える上で、絶好の文章でした。

横瀬古墳は、私の志布志の家から車で10分ちょいの所にあり、古墳から200m南に『焼酎・華奴』の醸造工場があります。

唐仁古墳も肝付町の塚崎古墳群も、横瀬古墳からは目と鼻の先です。

それで、じつは、唐仁古墳あたりに、大海人皇子（天武天皇）がお住いになっていて

...

『日本書紀』の編纂を命じ、『日本国』と命名し、史上初めて自らを『天皇』と名乗った！

これが↑飯山一郎の古代史の大きなテーマです。

---

名前：飯山一郎 2015/10/07 (Wed) 20:08:12

>>914 かんたさん

『天武天皇以前の日本列島』

7世紀後半から、日本列島には途轍もなく巨大な歴史的な大変動がありました。それは、先ず「日本国」という「高度な国家機関」が「突然」あらわれたことです。この「日本国」が編纂した『日本書紀』も、あまりに「ハイコンテキスト」でした。畿内につくられた平城京などの巨大な都城都市も、「突然」あらわれました。これらが、突然、日本の「内部」から現れるワケはありません。この日本列島の大変化は、百済国が「国ごと」大移動してきた結果です。

それでは、「百済国による日本国建国」以前の日本列島の様子はどうだったか？

古田武彦によれば...

七世紀までの日本列島には「近畿天皇家」よりも先に「九州王朝」が存在していて、遣隋使を送るなど中国と通好していた...、と。

私は、古田の言うとおりに、「九州王朝」は実在したと思います。

そのひとつが、「阿蘇山」の近辺に存在し、『隋書』に書かれた『?国』。

いっぽう、「近畿天皇家」とは、「仁徳天皇陵」や「応神天皇陵」を築造した近畿の大豪族たちで、彼らは、古墳時代の大スターでした。

天武天皇は、九州王朝(?国)を併合したあと、近畿に東征し...、「近畿天皇家」を篡奪し、大豪族の「系譜」を参考にしたり、また、大豪族の族長たちをモデルにして「万世一系の天皇家」の歴史物語を編纂した。これが『日本書紀』でした。

以上、天武天皇以前の日本列島は、大豪族たちが支配する「古墳時代」であって、「国家」といえるほどの国家機関や領土はありませんでした。

---

名前：飯山一郎 2011/01/30 (Sun) 22:12:46

考古学は、歴史学にとって邪魔者！ ...このことが分からない歴史学者はニセモノだと思っていいでしょう。

たとえば、「高松塚古墳」。

この発掘作業をした考古学者も、発掘作業の全てをみていた平山郁夫氏も、この高松塚の極彩色壁画は、北朝鮮の平壤周辺に散見される古墳群中の壁画と似ていることから、学界の見解に倣って「高句麗」の壁画であると断定した。

これが大きなカン違い、そして大間違い。

「高松塚古墳」は、高句麗式ではなく、百濟式！

これは、遼寧省の朝陽市などで、本物の百済の本物の壁画を見た学者なら、すぐに分かる。

また、中国の文献を熟読した深い文献史学の素養があれば「高松塚古墳」の壁画が高句麗式！ などという知見は出てくるはずがない。このへんの素養が、奈良近辺の歴史学者、考古学者の双方にない。可哀相なほどです。

さらに、たとえば「箸墓古墳」。  
築造された年代が卑弥呼の時代と同じ！ という鑑定結果がただけで、卑弥呼の墓だ！ と興奮して記者会見までする。年代が同じだというだけで、この騒ぎ！ これなどは、考古学が歴史学の邪魔をしている、という格好の例。

まあ日本の場合、歴史学も、考古学も、政治学も、社会学も日本列島のなかだけで完結してしまう学問で、アジアの中の日本！ という発想がない。

アジア全体を俯瞰する視点で見れば、邪馬台国も卑弥呼も日本列島のなかの話ではないことなど、即断できる。

日本の学者は、魏志倭人伝が日本列島の物語だと思い込み四百年近くも日本列島内で卑弥呼探しを延々とやっている。

卑弥呼は、永久に見つからない。絶対に見つからない。  
卑弥呼は、日本列島の間人じゃないんだから。

飯山一郎

---

名前：飯山一郎 2011/01/17 (Mon) 16:58:16

鹿之助さん

貴殿は、次のようなことを書かれています。

日本書紀の天智・天武天皇以降の歴史は信用できる。  
日本とは天智・天武天皇が飛鳥王朝を篡奪した百済再興王朝だ。  
天智天皇、天武天皇は扶余族末裔の百済王族ではないのか？！

そこで、質問。

扶余族末裔の百済王族である天智・天武天皇は、どのような経路で日本列島に入ってきたと思いますか？

このとき、天智・天武天皇は、九州南部に行かれていますか？

鹿之助さんは、大隅など九州南部を踏査されています。  
東串良では唐仁古墳群を見たあと、神武天皇御東遷の石碑も御覧になっています。  
そして...

「この旅で奈良にある柏原神宮の名前由来は、神武天皇が志布志湾岸東串良の柏原に吾平津姫と娘の豊受姫と3人でお住まいになっていたからの説に納得できました」

と書いてます。

これは神武天皇の大隅での実在！ を信じて言ったことですか？

「唐仁古墳」から6kmほど北東の「横瀬古墳」（壮大な前方後円墳）には行かれましたか？

それから、「唐仁古墳」から4kmほど南西の「塚崎古墳」は御覧になりましたか？

この3つ古墳群を結び繋ぐと、その先に「西都原古墳」、さらに...、その先には「巖島神社」、その先には「出雲大社」が、一直線上に並ぶのです。この意味は、分かりますか？

まだまだ質問があるのですが...

先ずは以上5個の質問に返答いただければ幸甚です。

飯山一郎

---

名前：飯山一郎 2011/03/06 (Sun) 11:14:54

ヤン教授も私も、「歴史」という言葉を厳格に使っています。

以下、それを説明します。

渡来人（百済人）が大勢日本に入ってくる前...

日本列島には、豪族・土族、また土着した大勢の住民が棲んでいました。彼らの族長は、死後に備えて巨大な古墳を築造しました。

この事業は、巨大な富と権力となければ出来ません。

こうした、巨大な富と権力をもった種族が、日本列島の処々に点在していました。

渡来人（百済人）は、日本列島に上陸後、列島土着の豪族・土族たちを

「土蜘蛛」の、「長髓彦（ながすねひこ）」の、「八掬脛（やつかはぎ）」のと呼び、これら土着の土族たちと戦い、あるいは吸収・同化・同盟しました。

百済勢（軍）といち早く同盟関係に入った種族は、阿多隼人、大隅隼人などと尊称・「隼人」がつけられました。

百済が日本列島に渡来する前の、豪族・土族達の長い長い「歴史」は、「古墳時代」と呼ばれます。

「古墳時代」の前にも、日本列島には、「弥生時代」、「縄文時代」。この前の「石器時代」。この遙か前の「超古代文明」。...と、沢山の歴史段階がありました。これは考古学が明確にしました。

しかし！ です。

「古墳時代」の「歴史」は...、  
「茶道の歴史」「本の歴史」というときの「歴史」と同じで、「時間の流れ」  
でしかありません。

「歴史」とは、岡田英弘の言葉を借りれば...、  
1. 「書かれた記録のないところに歴史はありえない」  
2. 「考古学は、本来は歴史の代用にはなりえない」  
3. 「歴史の本質は、政治史・権力史である」  
...ということです。

したがって...、  
百済人が渡来する以前の日本列島には、書かれた記録がありません  
から、「歴史はない」という表現になるのです。

「古代人の生活の流れ」はあったが、これは「歴史」ではないのです。

末筆ですが、  
「歴史」という言葉の定義を、厳格にしまって申し訳ありませんでした。

飯山一郎

---

名前：飯山一郎 2011/03/06 (Sun) 14:41:15

- 渡来人来日前の「記録」が、綺麗サッパリ消されたという可能性は？
- ◎渡来人来日前の豪族・土族・土着の住民（原日本人）は、『日本書紀』の  
ような「歴史」を編纂する、という意識（歴史意識）がありませんでした。  
また文字もありませんでした。  
ですから、渡来人来日前の「記録」は、文字の記録としてはありません。  
考古学は、古代人の生活や富の大小を発掘資料として提示しますが...、  
「考古学は、本来は歴史の代用にはなりえません」（by 岡田英弘）。
- 天皇家は、なぜ様々な歴史的なことを公にしないのでしょうか。
- ◎天皇家は『日本書紀』『古事記』という立派な歴史書を公表しています。  
これで充分でしょう。
- 歴史、存在の意味など正確に真実を知らされないのはなぜでしょう？
- ◎歴史、存在の意味など正確に真実を知ること。←これは不可能です。
- 陵墓の調査？
- ◎陵墓の調査をしても、徹底的に発掘しても、何も分かりません！  
「箸墓古墳の年代は、卑弥呼の年代と同じだ！」  
「だから、箸墓古墳は卑弥呼の墓だ！ 纏向遺跡は邪馬台国だ！」

“邪馬台国畿内説”を信ずるあまり、こんな↑考え方をする考古学者が  
陵墓の発掘調査をしても、時間と税金の無駄です。

“陵墓”に眠る霊の安寧のために静謐が必要！ この考え方を覆す理由  
は、ない！ と私は考えています。

●これはという本

◎『卑弥呼の正体』（山形明郷著 三五館）をおすすめします。

『古代史犯罪』（山形明郷著 三五館）と合わせて読むと、日本の古代史  
が、東アジアの古代史と連環して明確に理解できるようになります。

---

名前：飯山一郎 2011/01/10 (Mon) 07:38:13

鹿之助さん

読みました！ 貴殿の長文。時間をかけて真剣に読破しました！  
でも疲れは感じない。これは内容が素晴らしいということです。

ただし、論点が多杉。しかも、どれも歴史学上の大難題だ。  
こんなに多くの論点を一度に出されると、脳に負荷がかかり杉。  
だから、論点を整理しましょ！

鹿之助さんが出された論点は、大きく三つある。

ひとつ。天武天皇にまつわる日本建国秘話。

ふたつ。日ユ同祖論。

みっつ。東京皇室と京都皇統の諸問題。

以上、どの論点も一人の人間が一生かかっても解明不可能だ。

しかし、それを、あなたは一人で一度にやろう！ つーんだから、  
凄い。強い。若い。

私にも、そんな時代がありました。夜も寝ないで昼寝して...、  
飯も食わずに水飲んで、体を壊して入院しました。馬鹿でした。

鹿之助さんは、私より遙かに頭がEですから、大丈夫でしょう。  
ただし、サムライ氏は、大変な学者、それも落合氏に話を聞きに  
和歌山まで行き、何泊もされるような行動派の学者。さらに、  
超真面目なインテリゲンチャンなので、難題出すのは適当に。

さて、難題を片付けていきましょう！

ひとつめの天武天皇論。

これは、彼が編纂を命じた記紀、特に日本書紀に、ほとんどの  
史実が書いてある。また、中国の史書にも言及がある。さらに  
九州の各所に百済の遺物が残り、南郷村には百済博物館が  
あるほど。だから、既存の歴史学をひっくり返すのは簡単。  
ただし...

天武天皇以前の日本は、豪族割拠の古墳時代。  
だから、直前の推古天皇・聖徳太子などは、実在していたと  
しても日本列島の話ではない。  
つまり、天武天皇以前の歴史は、すべて百済国の歴史書の中  
に書かれた内容を「転写」したもの。  
したがって...、  
日本国も天皇制も、全ての歴史は、天武天皇と共に藤原京  
から始まった。  
つまり...、  
天武天皇以前に、「天皇制日本国」の歴史はない！」  
↑この真理！ が、なかなか理解されない。

ふたつめの日ユ同祖論、  
これは、説得力のある学説が沢山あるのですが...、  
系図が似ているとか...、  
ヘブライ語で読むと、見事に解釈できるとか...、  
皇室にも、ユダヤ由来の事物が散見されるとか...、  
どれもこれも、憶測や推測の域をでてない。  
日ユ同祖を証明する確固とした証拠がないのです。  
どうします？

みつつめの、京都皇統論。  
これは、サムライ氏に時間ができれば、しっかり論じられるはず。  
私も、『金王朝の“深い深い謎”』で、具体的に書く所存。  
乞御期待！

飯山一郎

---